



法人よつば たより

No.17

発行：社会福祉法人よつば ☎04-7199-7931
 発行日：2022年 7月 1日
 ホームページ：<http://www.kashiwa-yotsuba.jp>

☆ご挨拶

四月から五月にかけて実施した、「職員アンケート」の集計がまとまりましたので、五月中旬に法人の各事業にメールにて送付し、職員の方たちに回覧して読んでもらえるように行いました。内容は、所属する各事業に対する意見と、法人に対しての提案です。

六月には、理事会と監事会、並びに評議員会を開きました。令和三年度の事業活動報告と、決算報告を行い、合わせて、生活介護事業の進捗状況を報告しました。

法人内部研修を「ズーム会議」の形で六月に、二グループに分けて実施しました。学習会については、各事業単位で九月までに実施することになっています。



☆いよいよ、生活介護事業「まーる沼南」がオープン

柏市大津ヶ丘三丁目、二百十七㎡(六十五坪)の平屋建てを用いて、就労継続支援B型「青い鳥」との多機能型支援事業所として、定員十名からスタートします。送迎も行いますので、ご相談ください。心身のストレッチ・余暇活動・普

段の生活の訓練・就労練習などのメニューを組み合わせます。

まず、利用を希望されるご本人や、相談支援専門員と一緒に、見学をお願いします。体験利用も歓迎します。利用希望の方やご家族や相談支援専門員の方たちからの、問い合わせを期待します。

☆障害者の体験や思い

・東京都在住 ACさん
 現在私は東京に住んでいます。

しかし以前(約二十五年前)は、流山市で両親と一緒に暮らしていました。その時期は、私が統合失調症の症状でとても苦しんでいた時です。精神科クリニックに通院しながら、デイケアに通っていました。が、他の人とどうしてもなじめず、孤独でした。他の利用者とはラブルことも多く、両親特に父親とはいつももめていました。父親は説教がましく、私の苦しみを当初は理解してくれませんでした。しかし、家族会で学んだり、本を読んでも、私の苦しみを少しずつ理解してくれるようになりました。

ちょうどそのころに、NPO自立サポートネットが出来て、作業所に通うことが出来るようになり

ました。作業所は自由度が高く、職員も良く話を聞いてくれました。

しかし、人間関係が苦手なのは変わることはなく、いたたまれず母親の故郷の田舎で独り暮らしを始めました。自然が豊かでイライラすることも少なく、私にとっては居心地の良い場所でした。しかし、片づけも苦手、料理もできない私を見かねて、母が定期的に通ってくれました。その内、両親も引越しをしてくれ、一緒に暮らすようになりました。

しかし、両親が相次いで亡くなり、兄弟が心配してきてくれましたが、兄弟とも揉めることが多くなりました。それで、私は思い切って東京に出てきました。東京は一人暮らしには便利です。近所の人とはほとんど関わりがありません。それでも悩みや心配はあります。なので、そんな時は、流山市の知り合いに相談しています。昔、流山市に住んでいたころは不安定でしたが、五十代も半ばになるとそれなりに落ち着けるものです。

☆家族の思いと願い

・柏市在住 ABさん

(前回に続けて、息子のことを



お話しします。)

ベッドの上で、身動きできない苦しきの中で、久しぶりにテレビを見るのが許可となつて、息子は「俺って、何をやってるんだろ」とつぶやきました。息子は、なぜこんなこと(飛び降り)をしてしまったのか、理解できずにいる様子でした。担当医の先生から、「本格的なりハビリは、骨の回復状態を見て決めましょう」との言葉があつて、「ベッドを九十度まで起こしていいですよ」と言われて、窓から見えた景色はとても感動的でした。彼の目は涙があふれていました。その暫らくのちに、精神科病棟に戻りました。そのころに、尿の管が抜けました。私が付き添いから家に帰つた後は、看護師さんが頼りですので、ナースコールのない精神科では、排尿をしたいときには不安がいっぱひだったとあとで話してくれました。病院で握力を計つてみたら、一五ぐらいで、まだボールを握るのがやつと、右足を曲げる・伸ばすだけの訓練が始まりました。それでも体力をつけるために息子は頑張つたようです。

「お母さんが来てくれるとホッ

とする」と話してくれました。やつとトレーニングのおかげで、箸が使えるようになりました。箸があるときなどは、私が病院に着くなり、「お母さん、ゲームの好きな看護師さんと話をしたよ」と嬉しそうに報告がありました。病院では、車いすに乗るための座位を保つ訓練も始まりました。「息子さんは、お母さんが帰られた後でも良く笑えるようになりました」と看護師さんから話があつたとき、私もホッとしました。

車椅子に乗る許可が出たものの、それがスムーズに行えるようになるための訓練もまた大変でした。本人も自分の体を思うように動かせない、もどかしさとの戦いでした。そんな中で、本格的なりハビリが始まりました。担当の先生は女性の先生でしたが、優しい中にも手加減をしない先生でした。一番心配したのは、まっすぐになつている腕がもとのように曲がるのかということでした。ある日には、先生が分度器をもつてきて、測つてくれました。少し曲がつたとき、私は思わず、「ほら曲がつているよ、きつと元通りになるから」と思わず叫んでいました。(続く)

☆発達障害者の

「家族会」のご案内

発達障害者の家族会は、開設から約四年になるうとしています。

毎月定期的な集まりを持っていますが、世話人の方たちが、電話相談も受けています。

五月から、当法人のホームページのコーナーの中に、発達障害者家族の「ひまわりの会」の案内が掲載されるようになっていきます。

よろしければご覧ください。流山市や柏市や我孫子市や野田市などから参加されています。それぞれの思いを発言したり、情報提供の機会などを持っています。どなたでも歓迎します。

- ・いつ 毎月第二土曜日の午前十時から
- ・どこで 流山市の初石公民館にて
- ・問い合わせ 勝本まで
090-3696-1589

☆法人の事業案内

- ・就労継続B型 「よつば工房」(柏がんセンター近く)と「青い鳥」(大津ヶ丘)は、それぞれ定員四十人です。
- ・GH沼南荘 入居者を募集中
- 1Kタイプがあります。まず見学を。

・地域活動支援センターⅢ型「クローバ柏」、柏警察署の近くにあり、毎日のプログラム活動、就労準備など。

☆八つの健康習慣

〈大阪大学・森本教授〉

- 1・毎日朝食を食べること
- 2・毎日平均七〜八時間眠ること
- 3・栄養バランスを考えて食事をする(偏食・過食を避ける)
- 4・喫煙をしないこと
- 5・身体運動やスポーツを定期的に行うこと(適度の運動、散歩)
- 6・過度の飲酒をしないこと(出来れば禁酒が望ましい)
- 7・毎日平均九時間以下の労働に努めること(ワークライフバランス)
- 8・自覚的なストレスが多くないこと(気分転換を)



※よつば会家族会(柏部会)

日時:七月二十三日十三時

会場:パレット柏 コミュニ

C

※よつば家族会(流山部会)

会場:初石公民館 講義室